

選挙に関するアンケート調査結果

東近江市選挙管理委員会

目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果	2
	問 1 性別	3
	問 2 満年齢	3
	問 3 居住地域	4
	問 4 投票所に行く場合の手段	4
	問 5 投票所までの所要時間	5
	問 6 期日前投票制度を知っているか	7
	問 7 どの期日前投票所でも投票できることを知っているか	8
	問 8 期日前投票制度を利用したことがあるか	8
	問 9 現在の政治についてどう感じているか。	9
	問 10 政治に関心をもっているか	10
	問 11 投票率が低いことについてどう思うか	11
	問 12 投票率が低い理由について	11
	問 13 投票率を上げるための手段は	12
	問 14 印象に残っている投票参加への呼びかけは	15
	問 15 ホームページを見たことがあるか	15
	問 16 投票をしたか	16
	問 17 投票した理由	16
	問 18 投票しなかった理由	17
	問 19 投票所の見直しについて	18
	問 20 の 1 アピアでの期日前投票所開設について	19
	問 20 の 2 期日前投票所閉鎖時間の延長について	20
	問 20 の 3 各支所の期日前投票所開設期間の延長について	20
	問 20 の 4 無料送迎タクシーの運行について	21
3	投票区等の見直しについて	23
4	今後の方針	23

1 調査の概要

(1) 調査の目的

このアンケート調査は、東近江市の有権者を対象として、平成28年7月執行の参議院議員通常選挙（「今回の選挙」という。）時の投票行動等の実態を把握し、今後の選挙事務の執行管理や選挙啓発等への参考とするため、実施しました。

(2) 調査形態

調査地域	東近江市全域
調査対象	満18歳以上の男女個人
標本数	1,000人
抽出方法	有権者から無作為抽出
調査方法	郵送による
調査時期	平成28年9月下旬から10月中旬まで
回収率	47.9%（回収数479名）

(3) 調査結果の見方

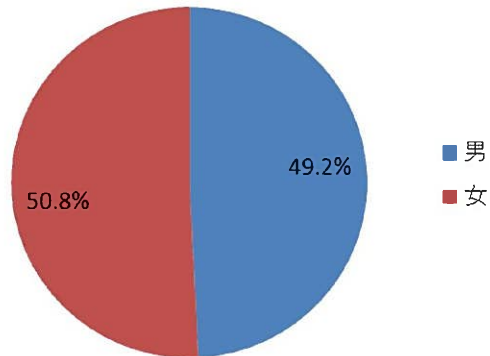
ア グラフの中の数字は、回答比率（%）又は人数です。

イ 回答比率（%）は小数点以下第2位を四捨五入したため、個々の比率の合計は、100%にならないことがあります。

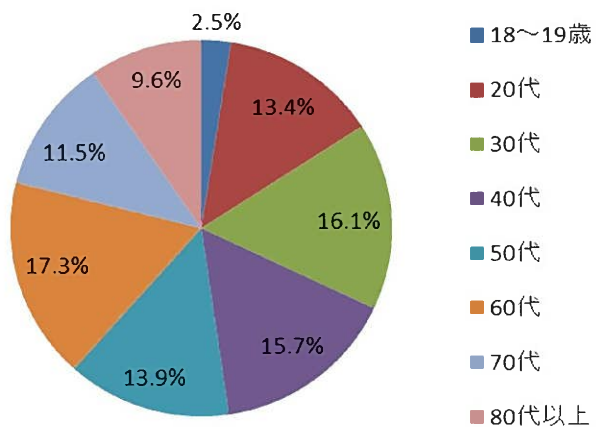
2 調査結果

アンケートの送付対象となった内訳は次の表のとおり。

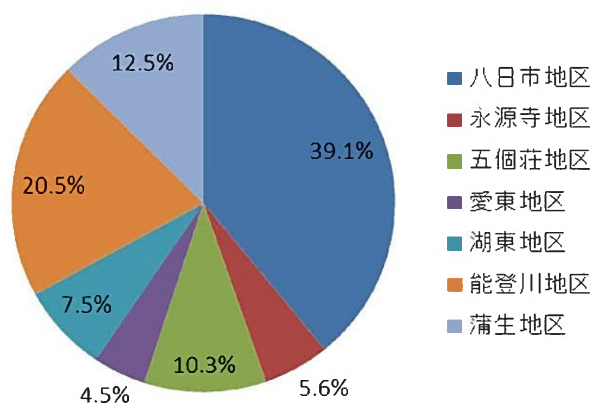
性別	人数
男	492
女	508
合計	1,000



年齢別	人数
18～19歳	25
20代	134
30代	161
40代	157
50代	139
60代	173
70代	115
80代以上	96
合計	1,000



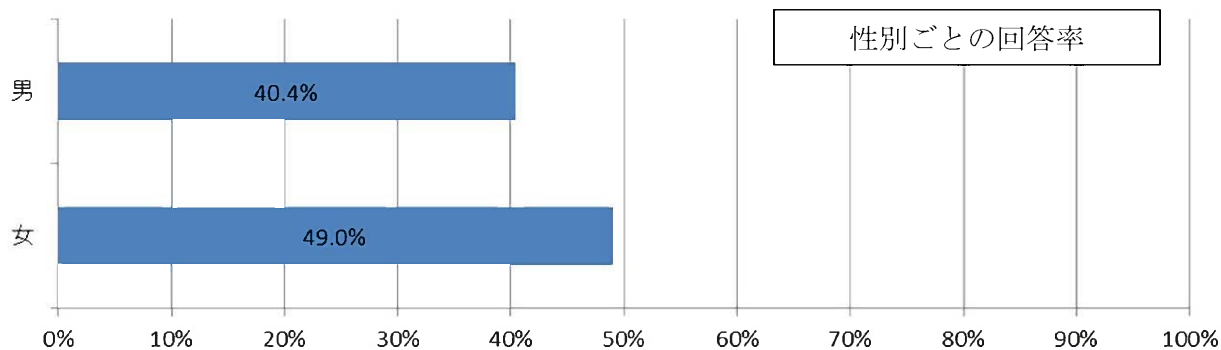
地区別	人数
八日市地区	391
永源寺地区	56
五個荘地区	103
愛東地区	45
湖東地区	75
能登川地区	205
蒲生地区	125
合計	1,000



送付数1,000通のうち、回答が得られたものは479通（約48%）であった。その内訳は次のとおり。

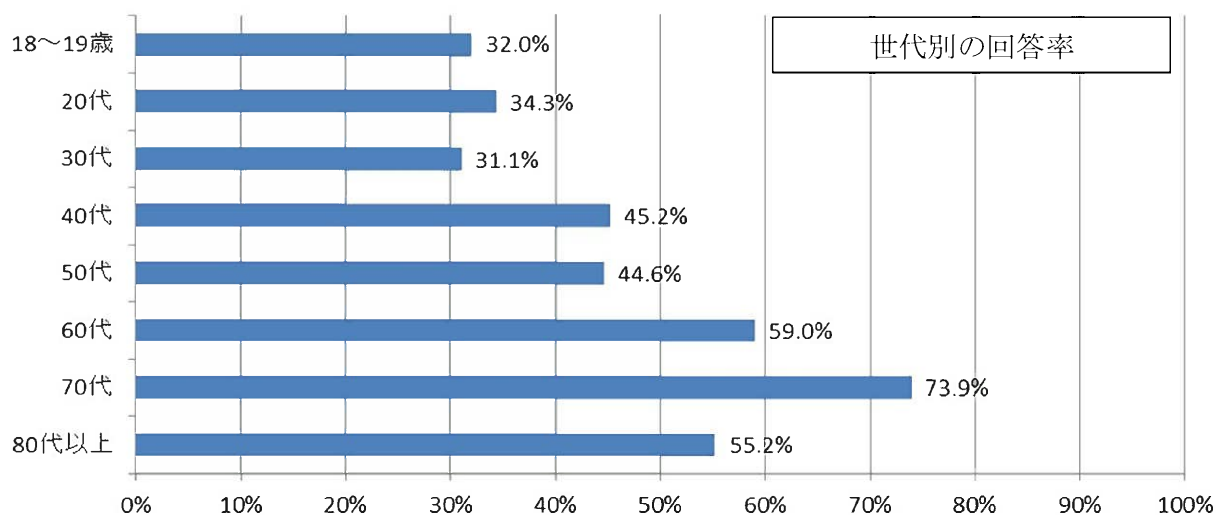
問1 あなたの性別をお答えください。

男	199人	女	249人	無回答	31人
---	------	---	------	-----	-----



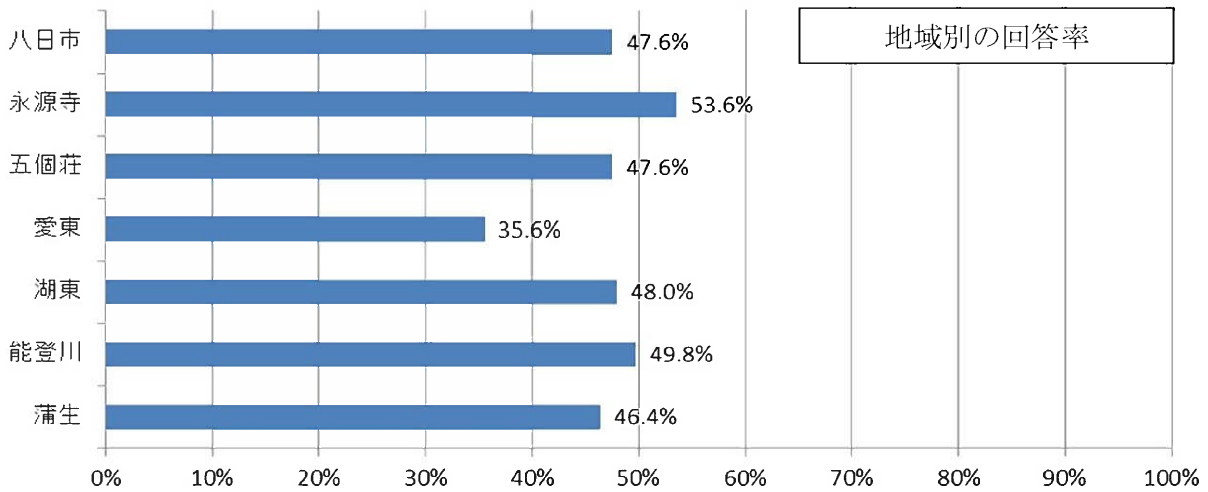
問2 あなたの満年齢をお答えください。

年代	人数	全体比	年代	人数	全体比
18～19歳	8人	1.7%	50代	62人	12.9%
20代	46人	9.6%	60代	102人	21.3%
30代	50人	10.4%	70代	85人	17.7%
40代	71人	14.8%	80代以上	53人	11.1%
			無回答	2人	0.4%

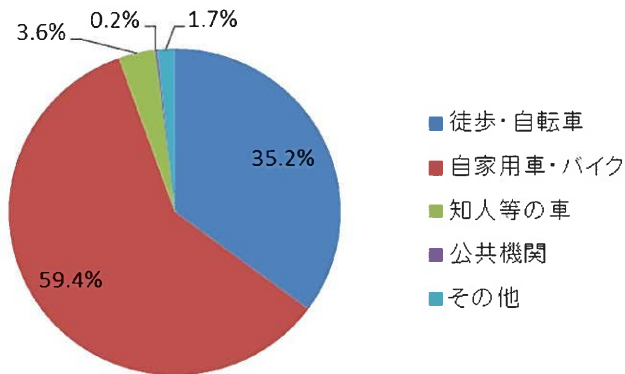


問3 あなたのお住まいの地域はどこですか。

地域	人数	全体比	地域	人数	全体比
八日市	186人	38.8%	湖東	36人	7.5%
永源寺	30人	6.3%	能登川	102人	21.3%
五個荘	49人	10.2%	蒲生	58人	12.1%
愛東	16人	3.3%	その他	2人	0.4%

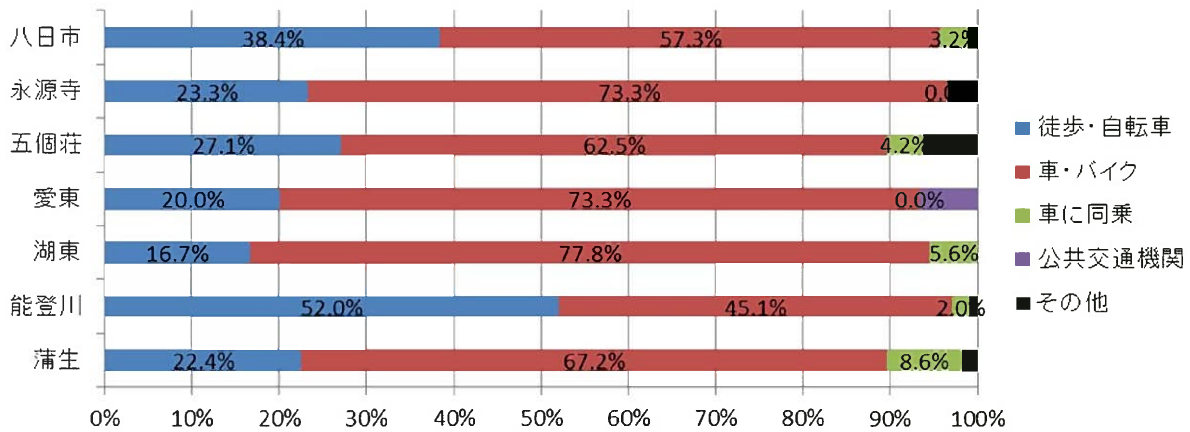


問4 あなたは、投票所に行く場合どのような方法で行きますか。

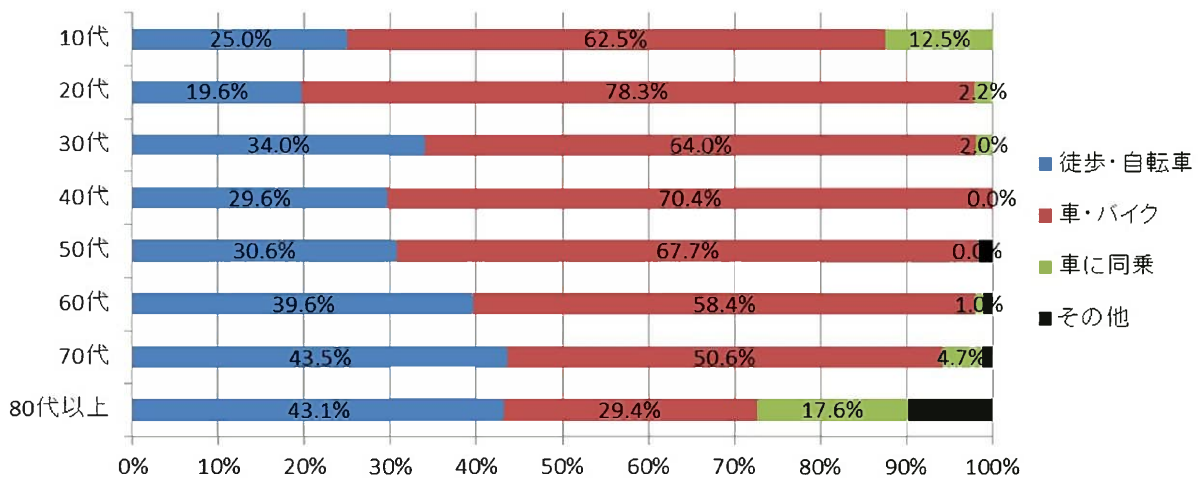


市内全体で見ると、約60%の有権者が自家用車やバイクを利用している。次いで徒歩・自転車が約35%を占めている。

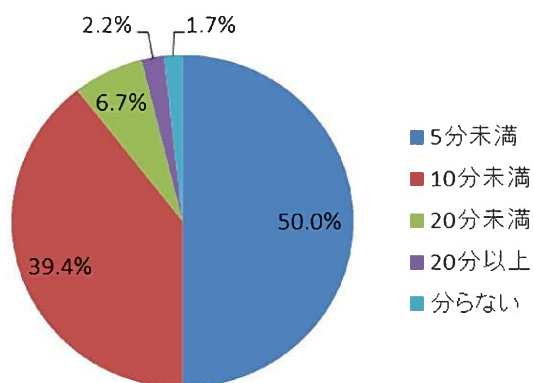
地域別に見ると、能登川地域では徒歩・自転車での投票が50%を超えており、自動車等の利用は約45%に留まっている。その他の地域では自動車等の利用が多く60%前後あり、さらに永源寺、愛東及び湖東地域では70%を超える利用が見られる。



年齢別にみると、10代及び80代以上では家族等の車への同乗が10%を超えており、周囲の協力が必要なことが分かる。また、それ以外の年代でも車等の利用が多くを占めており、投票所に一定の駐車場確保が必要なことが分かる。

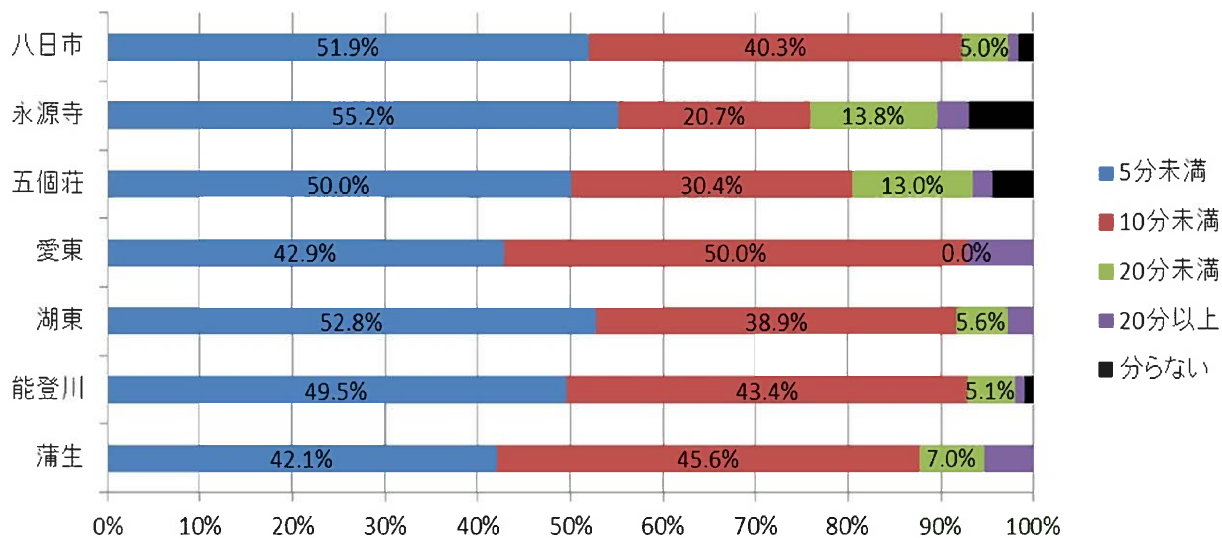


問5 問4の方法による場合、投票所まで何分ぐらいかかりますか。

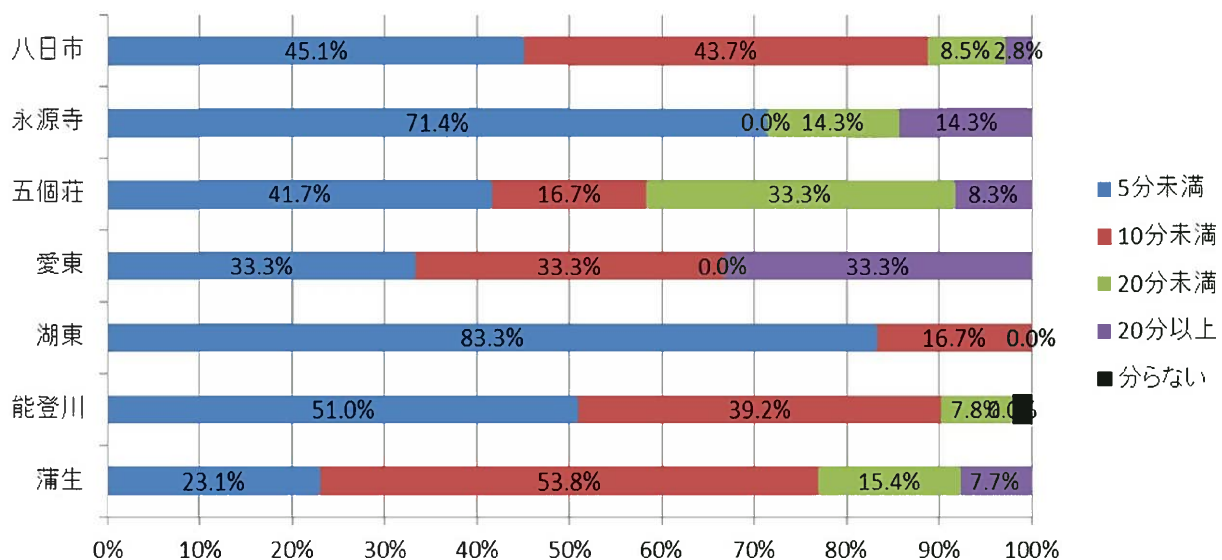


市内全体で見ると、50%の有権者が投票所まで5分以内の所要時間となっている。さらに約90%の有権者が10分未満の距離に投票所が設けられていることがわかる。

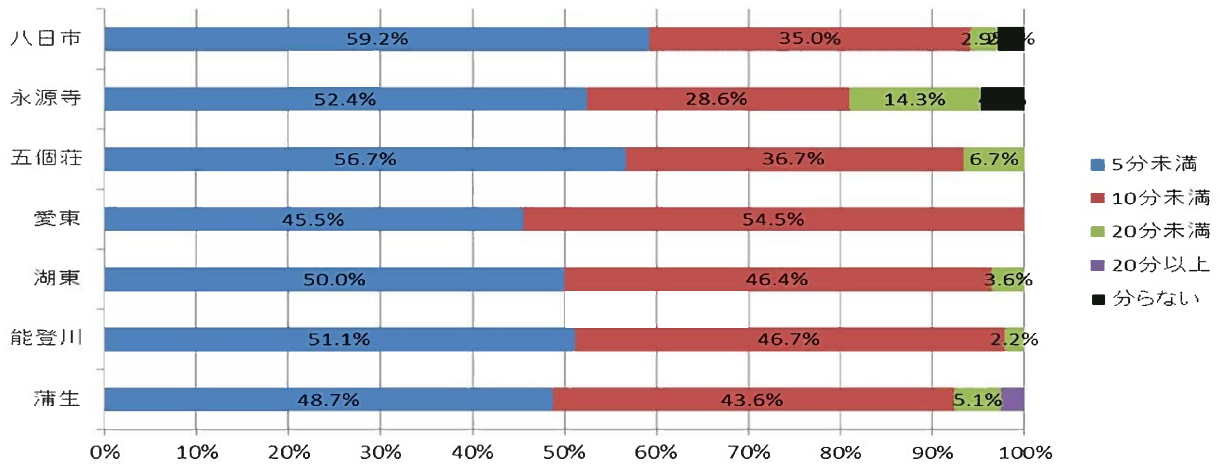
地域別に見ると、愛東及び蒲生地域で5分未満がやや低い数値になっており、それ以外の地域では50%前後の数値となっている。永源寺及び五個荘地域では10分以上20分未満の数値が比較的高い。



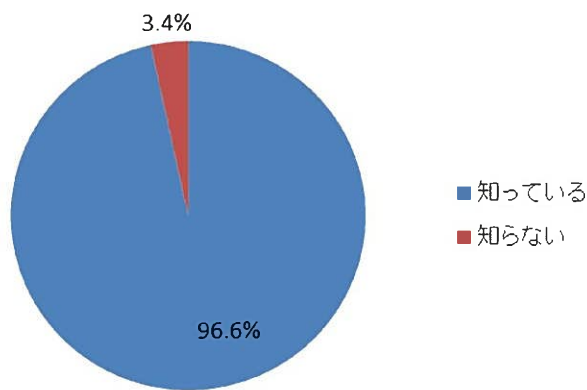
徒歩・自転車での投票方法による各地域の所要時間は、次の表のとおり。多くは10分未満で投票所まで到着されているが、五個荘地域では約41%が10分を超え、愛東地域では約33%が20分を超えて投票に来られている。



自動車・バイクでの投票方法による各地域の所要時間は次の表のとおり。永源寺地域で80%以上、その他の地域で90%以上が10分未満で投票所まで移動できる距離となっている。

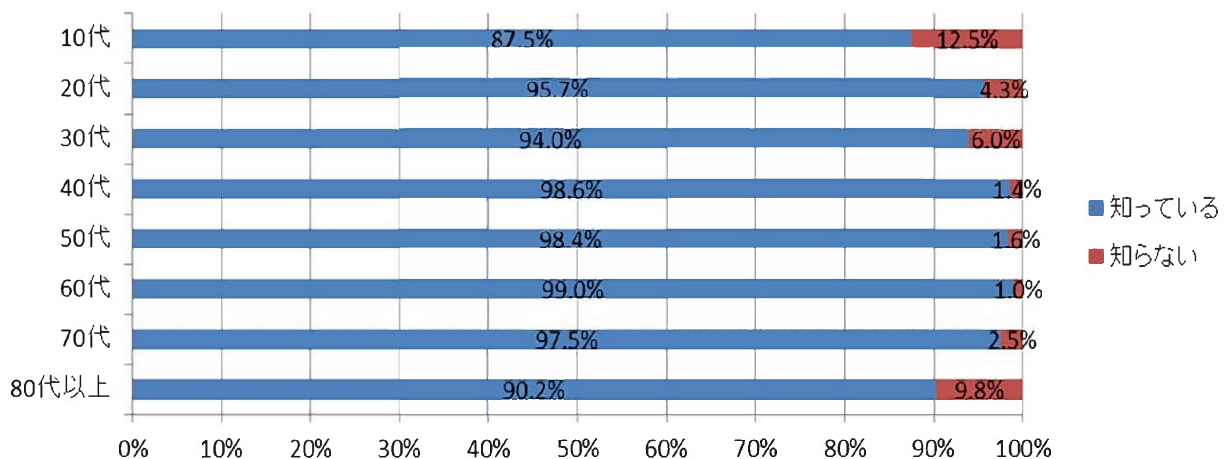


問6 期日前投票制度を知っていますか。

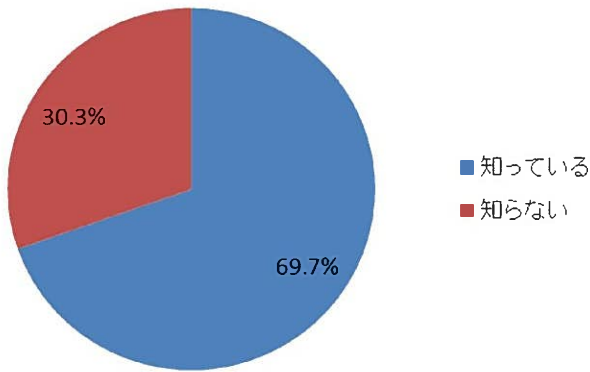


市内全体で見ると、96%を超える有権者が期日前投票の制度を知っている。制度を利用しなくても投票機会の確保の観点から全ての有権者に認知されるよう周知していく必要がある。

年齢別にみると、初めての選挙となる10代から選挙経験の少ない若年者層に制度を知らないとする回答が多かった。また、制度開始から13年程度しか経過しておらず、その影響であるのか、80代以上にも制度を知らないとする回答が多い。

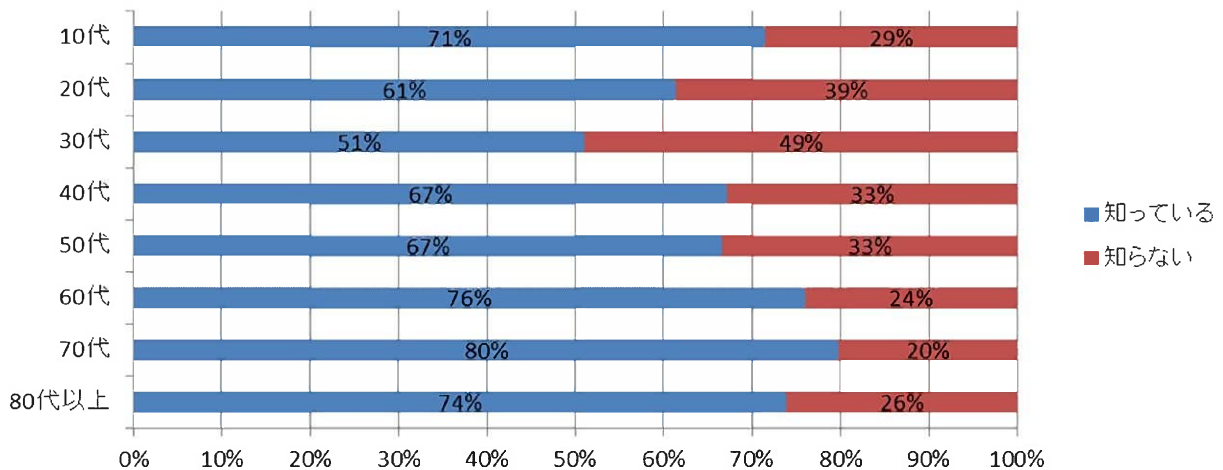


問7 東近江市内のどこの期日前投票所でも投票できることを知っていますか。

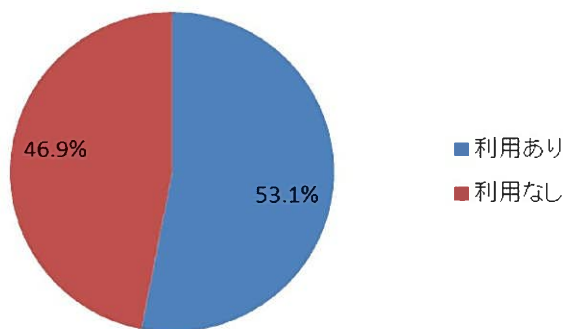


問6で期日前投票制度を知っていると回答した者のうち、どの期日前投票所でも投票できることを知っていたのは70%弱に留まった。投票機会の確保の観点から周知に努める必要がある。

年齢別にみると、20代から70代については制度の認知度は高いが、どこでも投票が可能であるということについては知らないとする回答がすべての年代で多かった。外出した際等に最寄りの期日前投票所で投票できることを周知することにより、投票率の向上につながると考えられる。

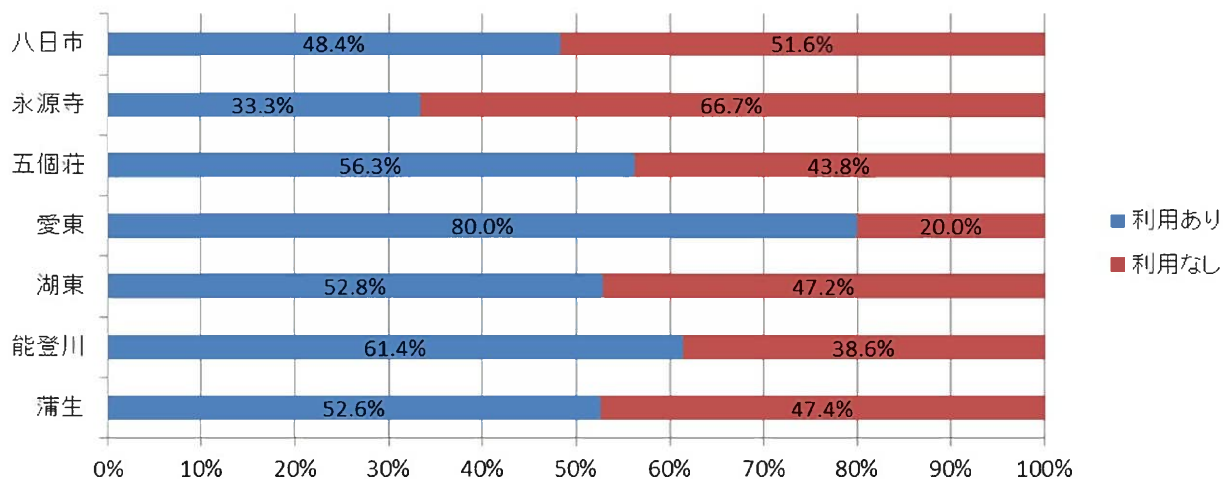


問8 これまでに期日前投票制度を利用したことがありますか。

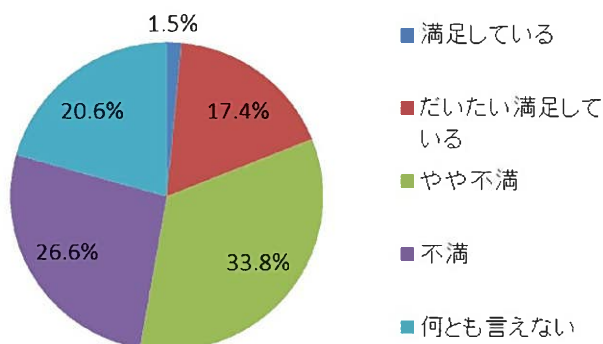


問6で制度を知っていると回答した者が90%を超えているのに対し、実際に制度を利用したことがある者は約53%であった。

地域別に見ると、永源寺地域の利用率が低い傾向にある。当日を含む投票率は、市内でも上位であるため、当日投票の意識が高いということが考えられる。また、愛東及び能登川地域は利用率が高い数値を示している。期日前投票所である愛東及び能登川支所の近隣には、有権者の利用する施設等があること、普段から人の往来があることなどが要因の一つと考えられる。

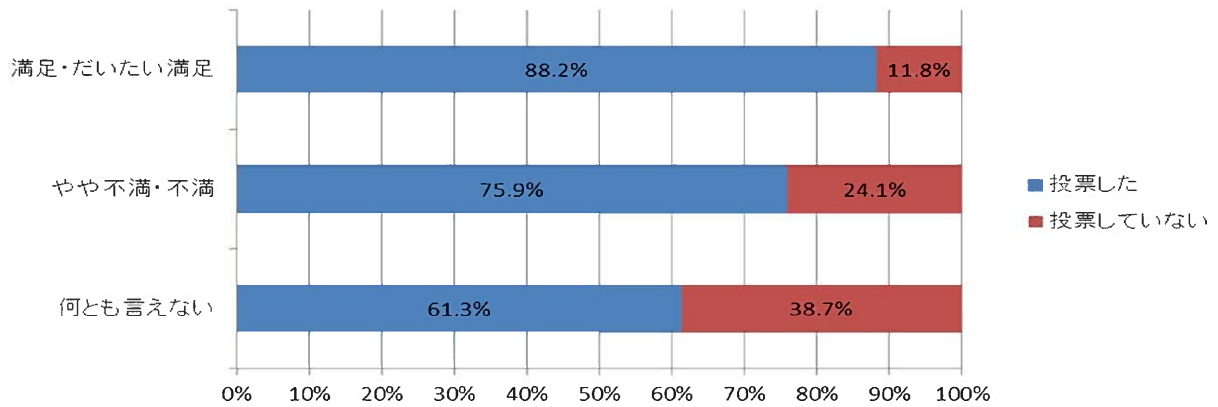


問9 現在の政治についてどう感じていますか。

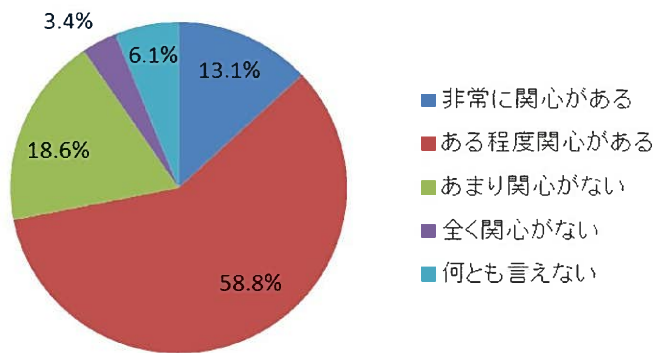


現在の政治についての感想としては「満足している」「だいたい満足している」が約19%、「やや不満」「不満」が約60%という結果となり、それが投票行動にどうつながるのかは次の表のとおりとなった。

問16 「あなたは投票をしましたか」の回答とクロス集計した結果、現在の政治について「満足している」、「だいたい満足している」と回答した有権者の投票率が最も高く、次いで「やや不満」、「不満」と回答した有権者の投票率、最後に「何とも言えない」と回答した有権者の投票率の順となった。

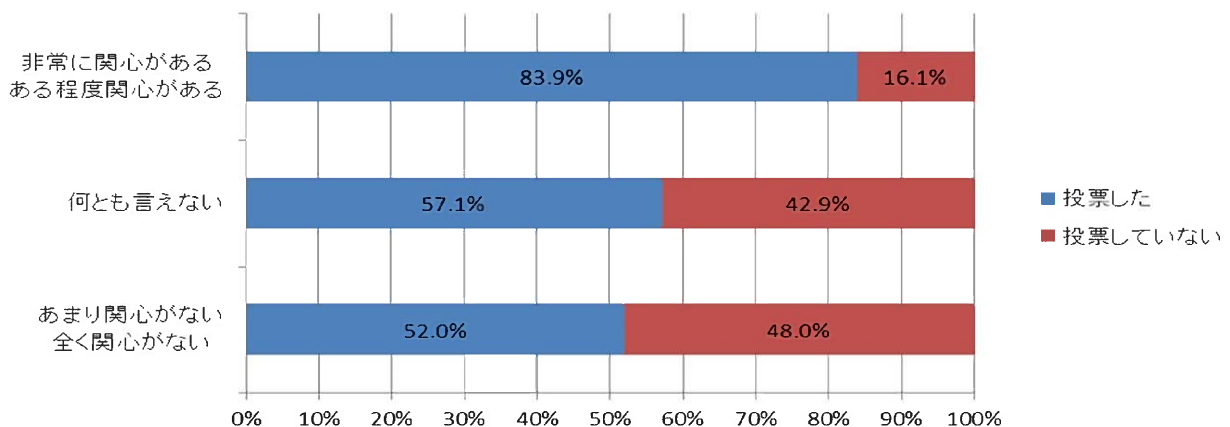


問10 政治に関心をもっていますか。

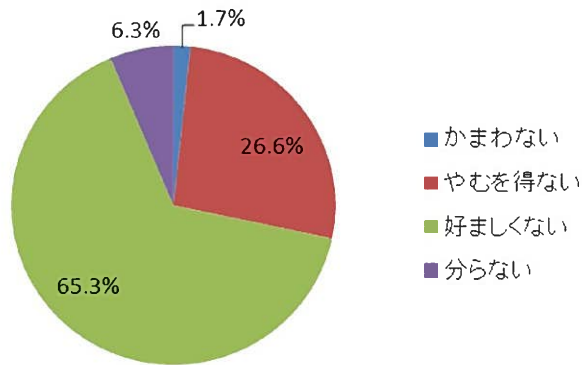


政治への関心については「非常に興味がある」「ある程度興味がある」が約72%、「あまり興味がない」「全く興味がない」が22%という結果となり、それが投票行動にどうつながるのかは次の表のとおりとなった。

問16「あなたは投票をしましたか」の回答とクロス集計した結果、「非常に興味がある」「ある程度興味がある」と回答した有権者の投票率は85%近くを示している。次いで「何とも言えない」と回答した有権者、最後に「あまり興味がない」、「全く興味がない」と回答した有権者の順となっている。問9の結果と同様に、何かしら少しでも政治に関心のある有権者が投票行動をとる傾向がみられる。また、「あまり興味がない」、「全く興味がない」と回答した有権者も一定の投票率を示している。

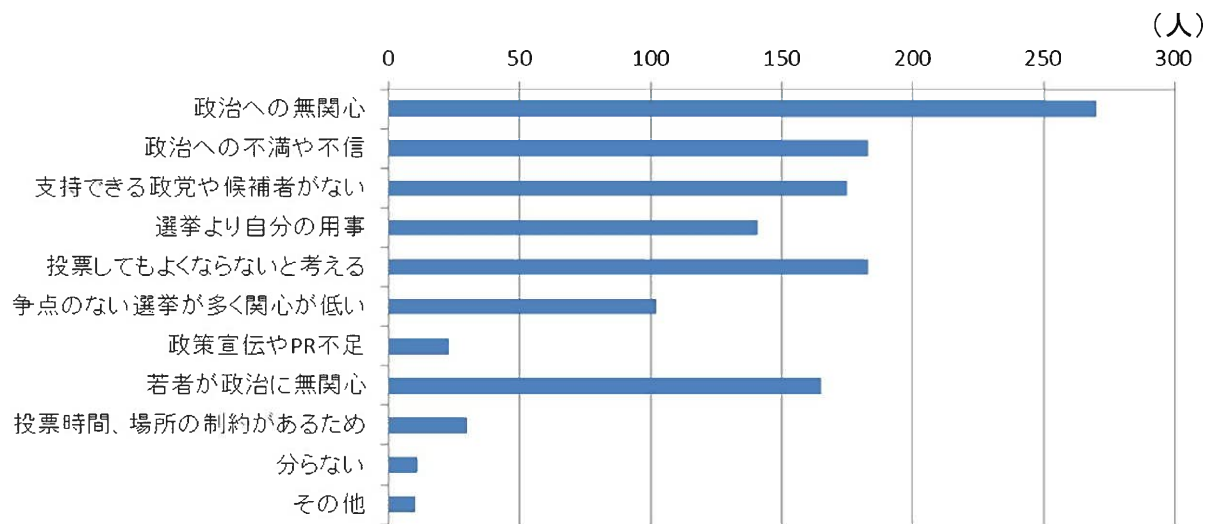


問 1 1 投票率が低いことについて、どう思いますか。



好ましくないとするものが大多数を占めるものの、投票率の低下が続く中、現状を容認する回答も約28%あった。低下の要因として考えられるものを次の設問で見る。

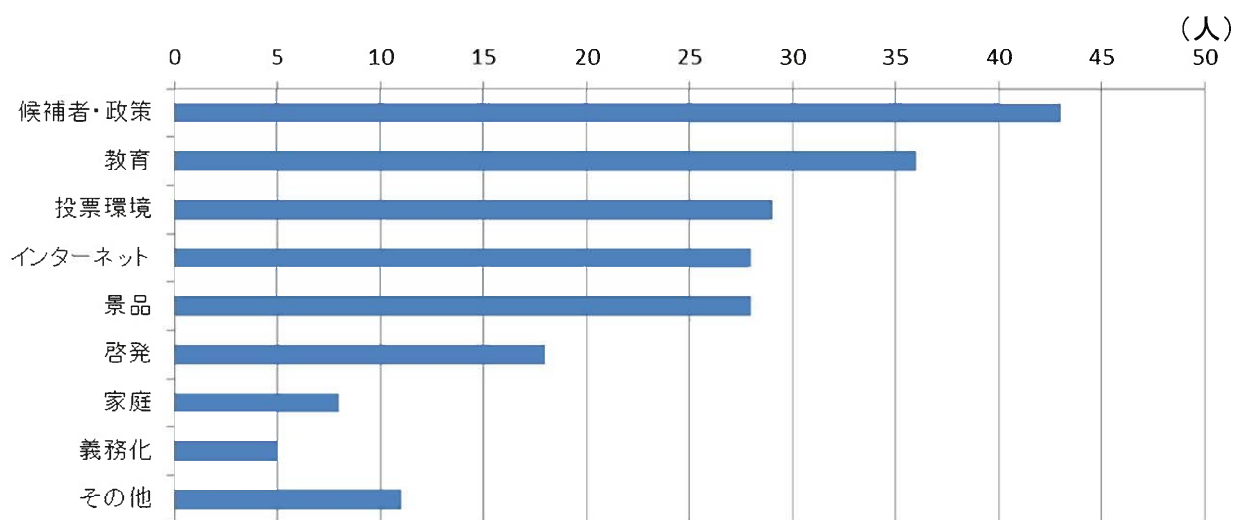
問 1 2 投票率が低い理由と思われるものを、3つまで選んでください。（複数回答）



内容によっては選挙管理委員会の啓発等の働きかけでは解決が難しいものもあるが、「政治への無関心」、「選挙より自分の用事」、「若者が政治に無関心」の理由については、今後、教育現場での主権者教育の推進や選挙啓発を工夫することで改善していくと考えられる。

問 1 3 投票率を上げるためには何をしたら効果があると思いますか。(自由記述)

自由記述形式としたこの問いには、200を超える意見があった。大きく8種類とその他に分類をした。



1 候補者・政策

一番意見が多くあったのは候補者や政策に関するものであった。候補者の資質と明確な政策、当選後の実行力等が投票率を左右する要因と考えられる。

- ・ 若者や子育て世代にとって重要な論点があればアップする。
- ・ 候補者に問題があるんだと思う。候補者のレベルUP
- ・ もっと多くの若い候補者が出馬すれば投票率は上がると思います。
- ・ 公約を必ず守る。言ったことは実行する。結局誰がなっても一緒。
- ・ 市民の声を本当に聞いて下さる方が政治をして下さるなら若者たちも耳を傾けると思います。連日報道される政治家の不祥事、選挙に行く気にはなれません。
- ・ 暮らしが良い方向に進まないのだからだれがなっても同じ結果とあきらめているので、投票に行かない。
- ・ 子どもが期待してくれるような政治家がでること。

2 教育

次いで多かった意見は、学校等の教育現場で政治及び選挙の大切さを含めた主権者教育を行うというものであった。これまでの日本の教育現場においては取組の事例は少なかったが、平成27年度以降、各学校で積極的な取組が始まり、将来の投票率向上につながるものと考えられる。

- ・ 学校で現代社会のありかたと選挙が大きくかかわっていることを教育する。
- ・ 学校で政治や選挙の大切さを教育する。
- ・ 子どもたちが理解できるように小学生くらいから教育する必要がある。

- ・ 中学・高校の授業の中で少しずつでも一人ひとりの考えや意見が投票する候補者や政党によって反映されるという事を教えていけばよいのでは？
- ・ 若者にこそ選挙の必要性を学校や自治体が率先して指導・教育に取り組む。
- ・ 小学校高学年から、授業の中で政治について関心が持てるように教えていく事が必要。

3 投票環境

ショッピングセンター内での投票所の設置等、気軽に投票できる環境を望む声も多くあった。先の選挙で実施したショッピングプラザピアでの期日前投票所を含め、今後共通投票所や移動投票所の検討、投票所内の雰囲気作りにも意見が寄せられた。

- ・ 駅前・学校前に投票所の設置。友達と一緒にいける。
- ・ 出かけたついでに投票できる様な場所に投票所があれば良い。
- ・ スーパーやコンビニでも投票できるようにする。車に設置した投票所で高齢者や障害者のために家近くまで出向く。
- ・ ショッピングプラザピアのようにほかのスーパーでも投票できるようにしてほしい。
- ・ 期日前投票ができる場所を増やす。特に若年層がよく行く所が良い。
- ・ ほかの地域に住んでいる人も近くの投票所で投票できるようにする。
- ・ 投票所の雰囲気を変える。立会人さんが入口をじろりと見てくるので入りづらい。
- ・ 堅苦しいイメージがあるので、気軽に行ける雰囲気だったら良いのでは。

4 インターネット

候補者、その政策、選挙の情報等の発信、また、投票自体をインターネット環境を利用して行うという意見も多く寄せられた。現在インターネットによる選挙活動は行えることとなっているが、目に留まりやすい魅力的な情報の発信方法等、候補者のみならず選挙管理委員会においても積極的に検討していく必要があると考える。

- ・ インターネットの活用。簡単に投票できるようにする。
- ・ スマートフォンで投票できるようにする。
- ・ スマートフォン向けに候補者の政策等の分かるサイトを作る。
- ・ 政策等の情報をインターネットなどでいつでも見られるようにする。

5 景品

投票者に粗品等の景品やポイントを付与するなどの投票行為に直接働きかけるといった意見もあった。「買い物の助成券を配布した」といった事例もあるため、今後の検討課題の一つとしたい。

- ・ ゴミ袋やジュース等の粗品を配る。
- ・ 投票すれば地域商店と協力してクーポンなどの提供。
- ・ ポイントを付与し、コンビニや行政サービス（住民票取得等）に使えるようにする。
- ・ 投票率だけ上げるのであればポイント制にして景品がもらえるようにすればよい。

6 啓発

ここで啓発としてまとめたものは、選挙管理委員会による街頭啓発等のほかに、候補者や政策等がわかりやすく伝わるようにすべきという内容のものが多かった。投票行動につながるよう、中身のある啓発をとの声が多く寄せられた。

- ・ 候補者についてもっと詳しく知るための情報などが必要。
- ・ 選挙公報の言葉が難しく理解するのが大変なので若年層の関心が向けられるような内容のものが良い。
- ・ 選挙公報を読んでも政策がよくわからない。各候補者の政策等がわかるようにすべき。若者にはわかりにくいと思う。
- ・ 政治の‘成果’（たとえば、こんな法案が通ったのでこんな良い結果につながった等）を具体的に情報にのせることで政治への関心と呼ぶ。
- ・ 回覧板などで投票した人数、年齢、結果等自治会単位で詳細な投票率がわかると関心をもてる。

7 家庭

各家庭において政治や選挙について話し合ったり、親が投票する姿を見せたりするなど、家庭での取組を提案する意見もあった。学校教育同様、普段からの取組を重要視するものである。

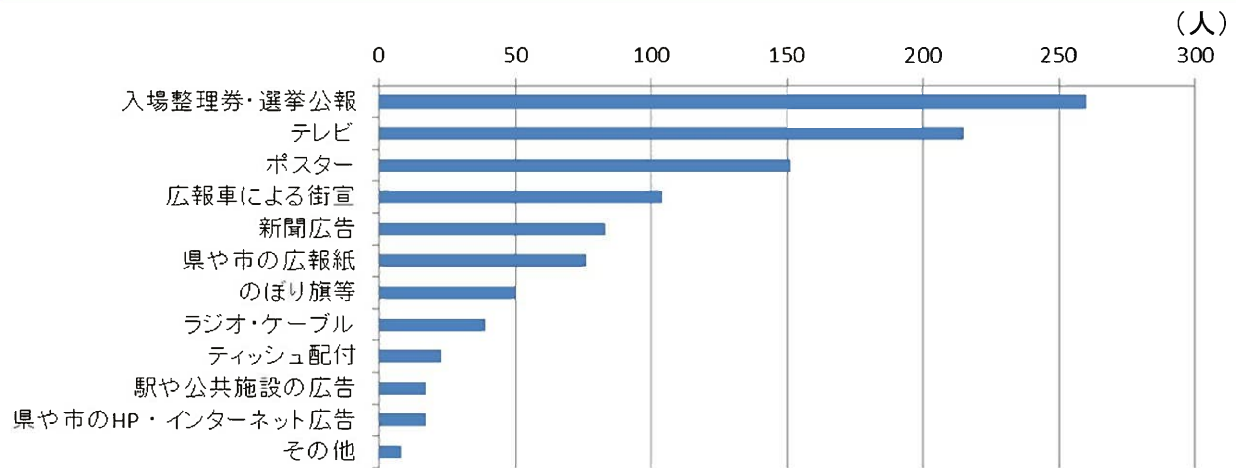
- ・ 家庭において政治の不満ばかりを話題に上げず、どうしたら良くなっていくのか前向きに話し合うことも必要だと思う。
- ・ 自分の子供に積極的に投票に行く様にすすめる。親自身が関心を持つ。
- ・ 子どもが小さいころから一緒に投票所に行き、投票という行動がごく当たり前のことだととらえるよう親が時間をかけて教える。
- ・ 家族が声を掛け合い一緒に投票所へ行く。

8 義務化

「投票することを強制する」、「投票しない人にペナルティーを与える」等、制度上出来ない意見も少数あった。しかし、これくらいしないと投票に行かないと考えられていることも現実である。

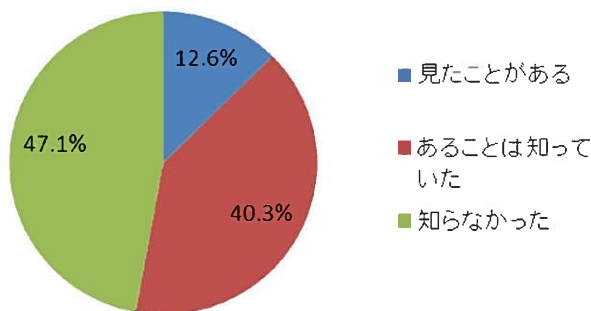
- ・ 投票に強制力を持たせる。
- ・ 選挙に行かないとお金がとられるシステムにする。
- ・ 投票に行かない人には罰金を払ってもらうようにする。投票に行った人には市指定のゴミ袋をもらえるようにする。

問 1 4 最近の選挙で印象に残っている投票参加への呼びかけはどれですか。（複数回答）



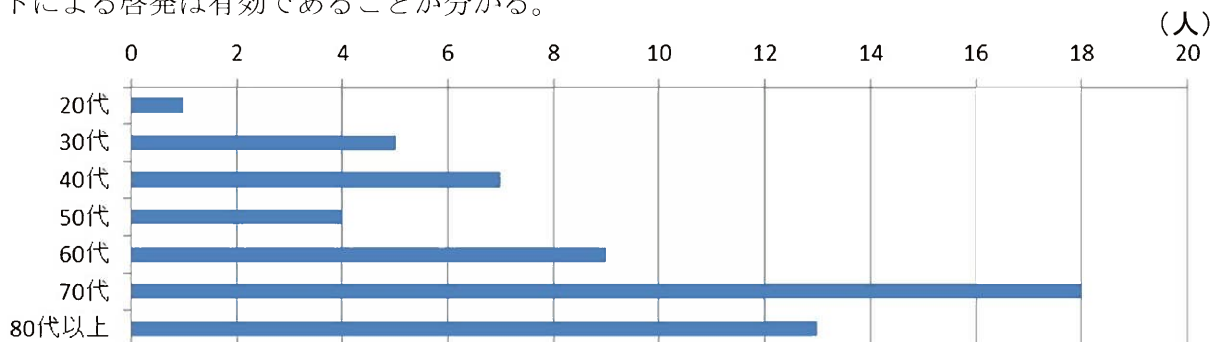
すべての有権者に配布している投票所入場整理券及び市内の全戸に配布している選挙公報が一番手に取りやすい媒体として印象に残っているようである。しかしその有効な媒体も、期日前投票期間中に順次配送・配布されるため、期間の短い選挙では投票の機会の確保から早急な配送が必要である。また、テレビに次いでポスター掲示場や広報車も有効な媒体として位置づけられている。

問 1 5 東近江市のホームページの選挙に関する情報を御覧になったことがありますか。

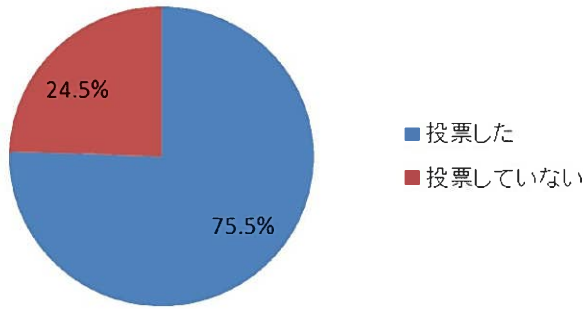


「見たことがある」と回答したものは12.6%と低い数値であった。投票の状況等について詳細にまとめた資料等、独自の情報発信で魅力を作っていく必要がある。

年代別にみると、若年者層の利用が多いと見込んでいたが、予想に反し60代から70代、80代以上の利用が多くを占めた。若年者層だけでなく高齢者層に対してもインターネットによる啓発は有効であることが分かる。

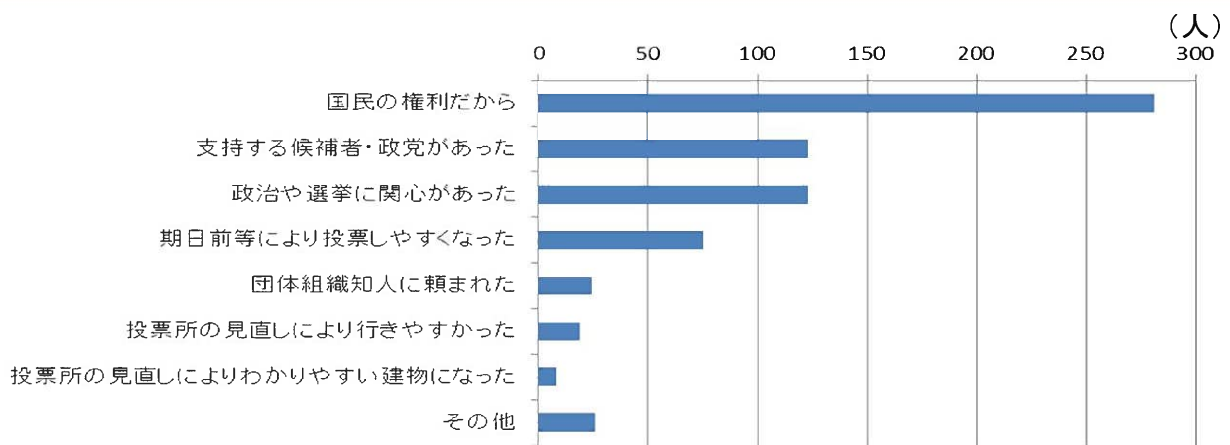


問 1 6 あなたは投票（期日前・不在者投票を含む）をしましたか。

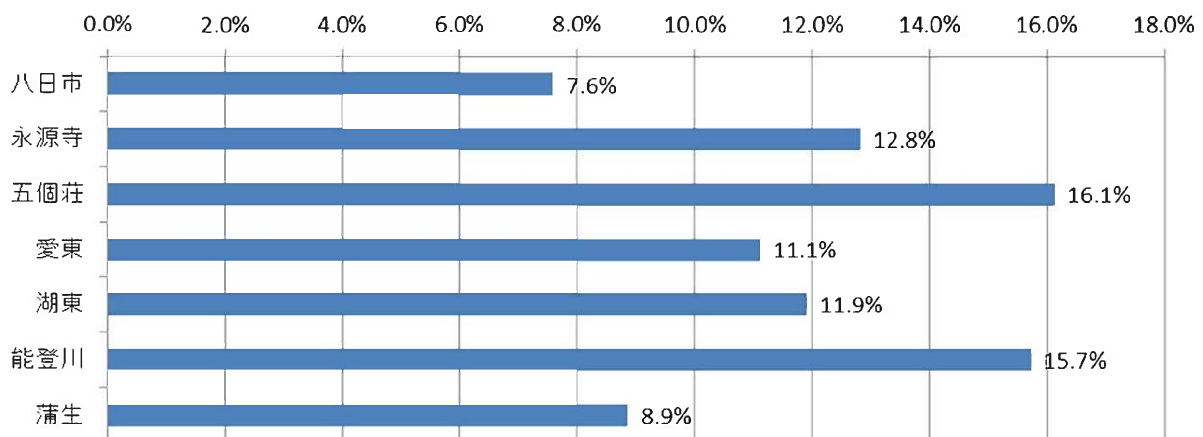


先の参議院議員通常選挙の投票率
54.25%に対し、アンケート
に回答した有権者の投票率は
75.54%であった。

問 1 7 あなたが投票した理由は何ですか。（複数回答）

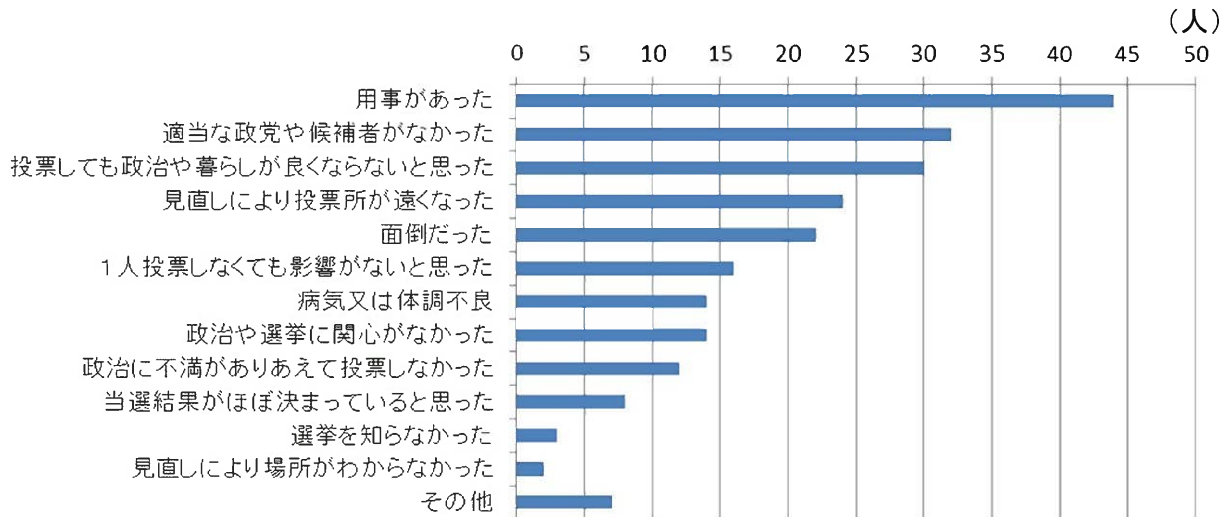


理由の内、「期日前等により投票しやすくなった」と、回答した者を地域別（注1）に見てみると次のとおりとなり、各支所投票所の期間の延長等により、特に五個荘及び能登川地域で高い割合となった。



(注1) 例 八日市 (7.6%) = $\frac{\text{八日市地域の「期日前等により投票しやすくなった」の回答数(21)}}{\text{八日市地域の「問17」の回答総数(277)}}$

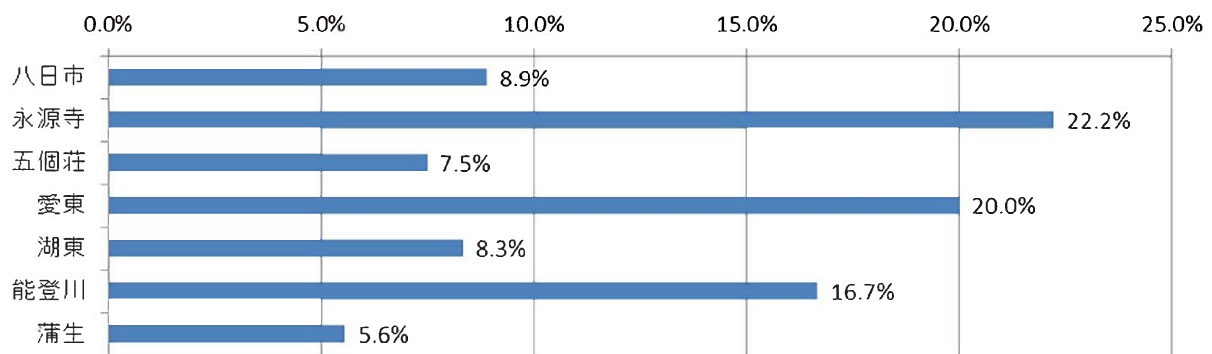
問18 あなたが投票しなかった理由は何ですか。(複数回答)



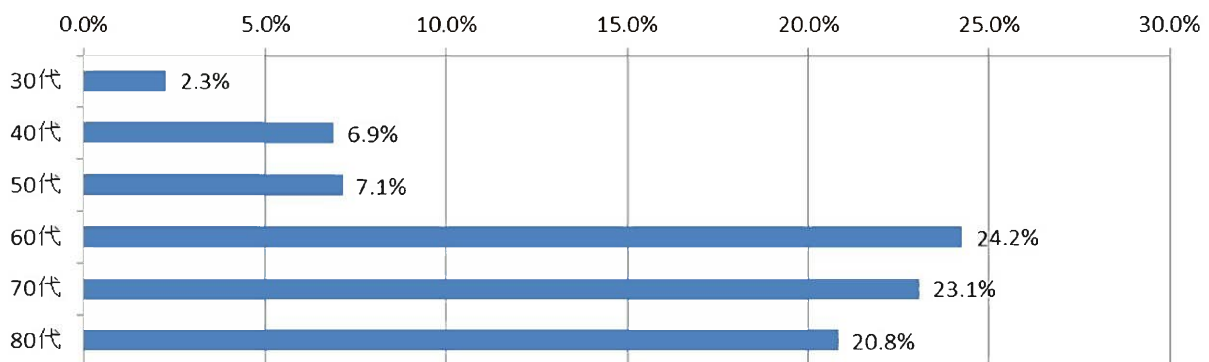
理由の内、投票環境に関する回答を得たものを地域別及び年代別で見ると次のとおりとなった。

1 投票所の見直しにより投票所が遠くなった

24人からの回答があり、地域別(注1)を見ると、特に永源寺及び愛東地域については高い割合となっている。また、年代別(注2)では60代以上で高い割合となっている。



(注1) 例 八日市 (8.9%) = $\frac{\text{八日市地域の「見直しにより投票所が遠くなった」の回答数(8)}}{\text{八日市地域の「問18」の回答総数(90)}}$

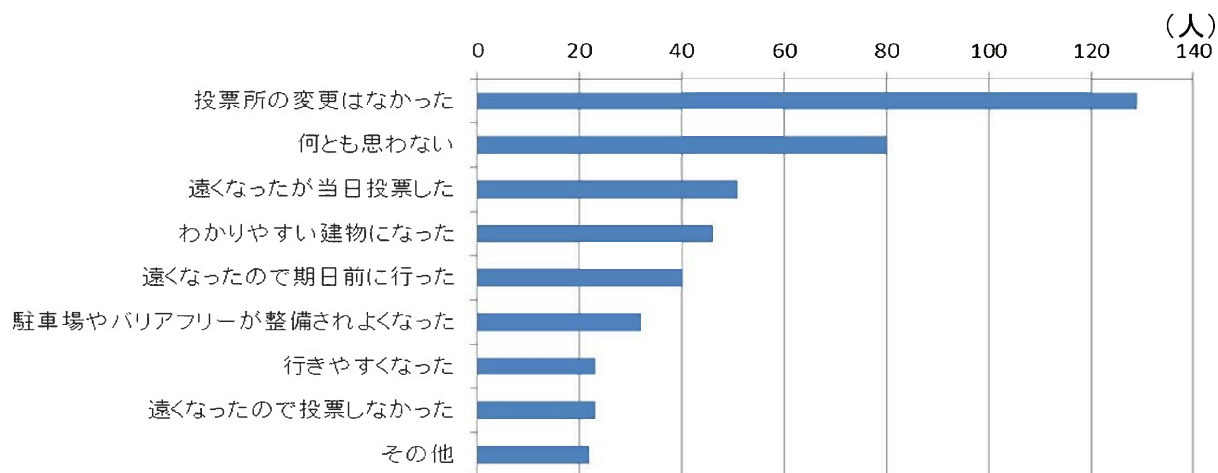


(注2) 例 30代 (2.3%) = $\frac{\text{30代の「見直しにより投票所が遠くなった」の回答数(1)}}{\text{30代の「問18」の回答総数(44)}}$

2 投票所の見直しにより投票所の場所がわからなかった

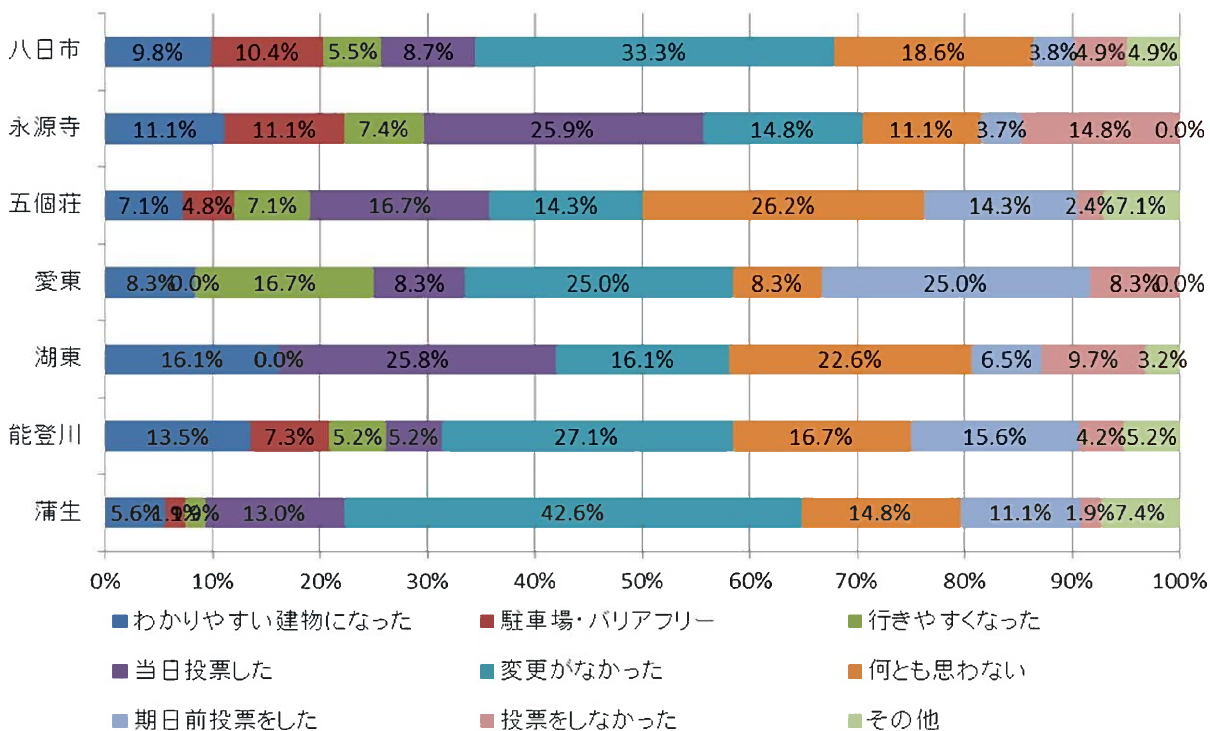
この回答については2名から頂いている。1名は80代の五個荘地域の方。もう1名は能登川地域の40代の方。五個荘地域については支所のほかは全て幼保施設としたため、普段の生活でなじみのない高齢層には建物の認識がなかったと思われる。投票所の見直しによる周知が十分でなかった可能性も含め、今後の課題としていきたい。

問19 今回投票所の見直しについてあてはまるものを選んでください。(複数回答)



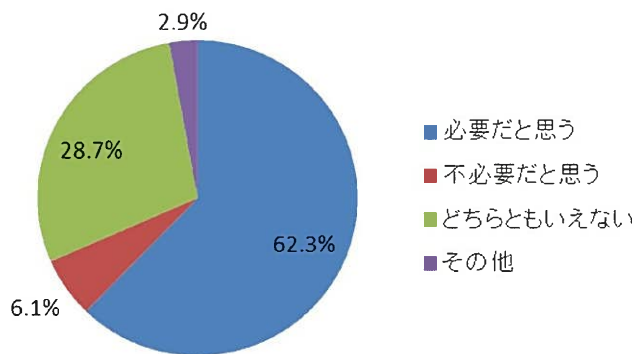
「遠くなったが当日投票した」という回答が51名であった。一方、「遠くなったので投票しなかった」という回答が23名で、アンケート回答者479名に占める割合は4.8%となっている。

なお、各地域別の結果は次のとおりである。



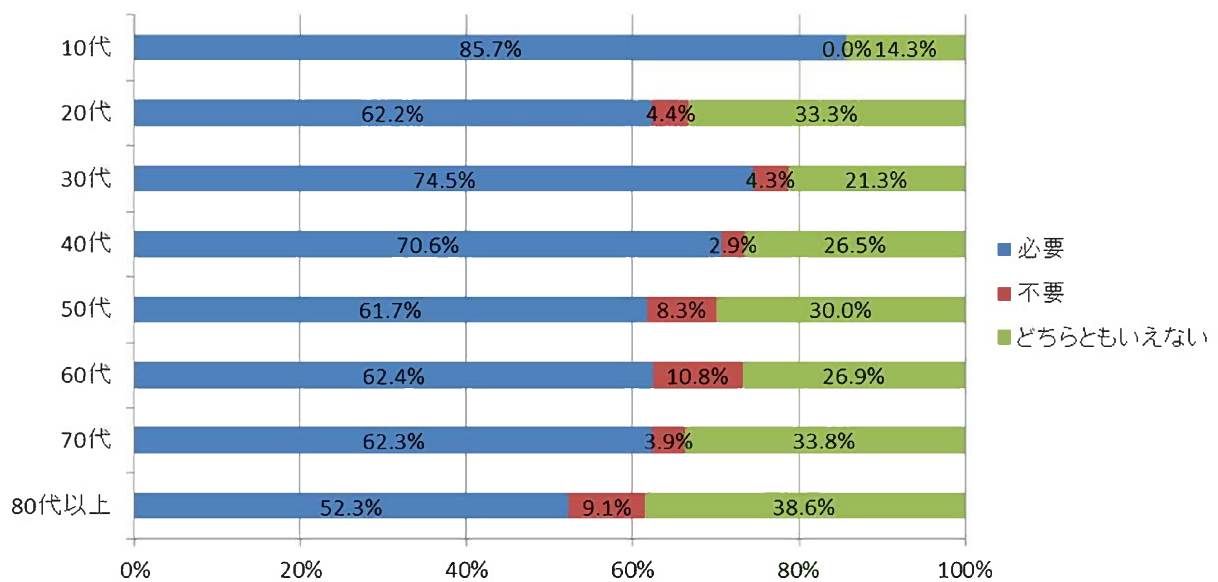
今回の選挙から、東近江市では新たな取組を行った。以下はそれらの効果について質問した結果である。

問20の1 ショッピングプラザアピアに期日前投票所を開設したことについて

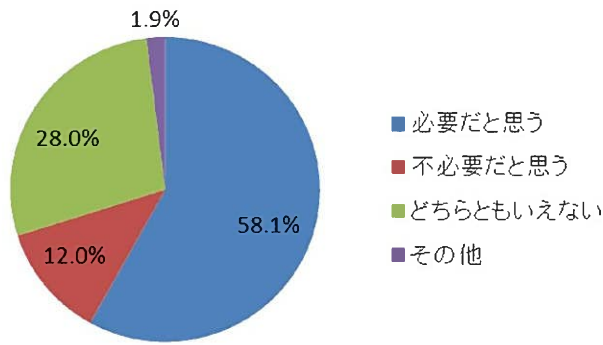


必要とする意見が60%以上を占めている。実際に多くの期日前投票があったことから、他の施設も模索しながら継続していく必要性は十分にあると考える。

年代別に見ると、ショッピングプラザアピアの利用が多いと思われる年齢層で必要との回答が多く得られている。

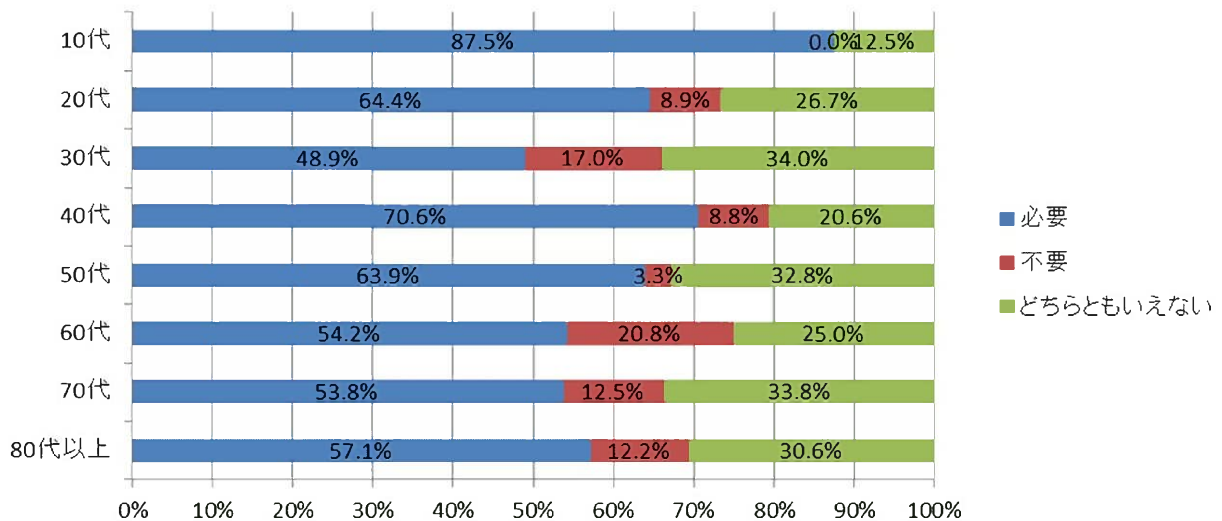


問 2 0 の 2 期日前投票所の閉鎖時間を 2 1 時へ延長したことについて

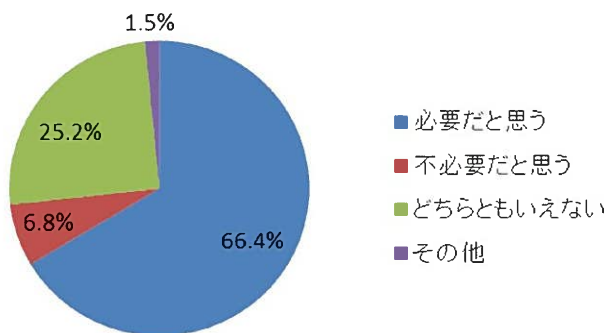


実際には投票者の数は少なかったが、必要とする意見が60%近くを占めている。今後の周知方法等も検討しながら慎重に判断していく必要があると考える。

年代別に見ると、若年者層や仕事等で帰宅時間が遅くなると思われる年齢層で必要とする意見が多い。

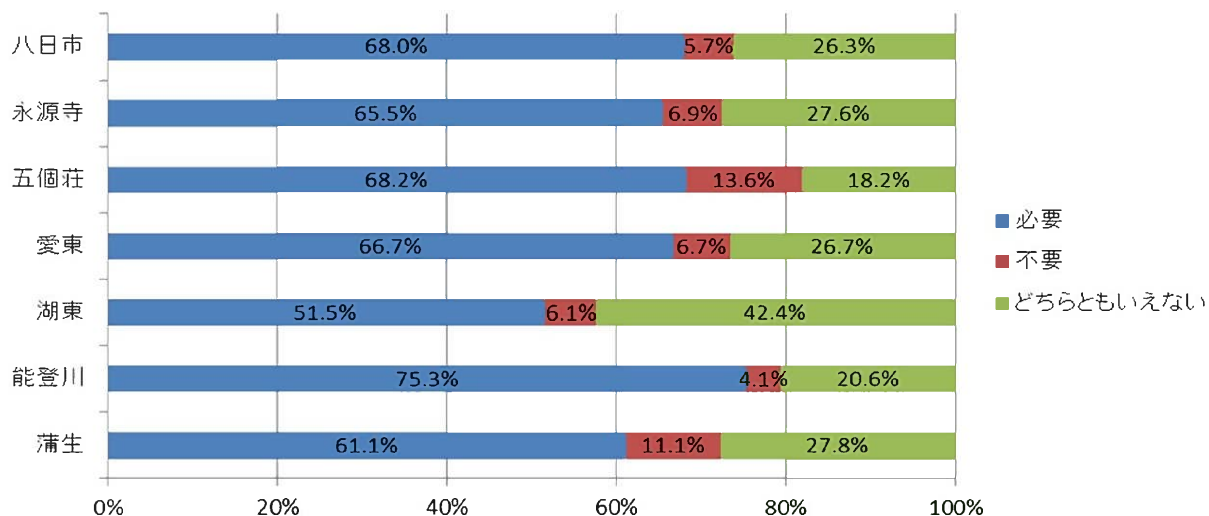


問 2 0 の 3 各支所の期日前投票所開設期間を延長したことについて

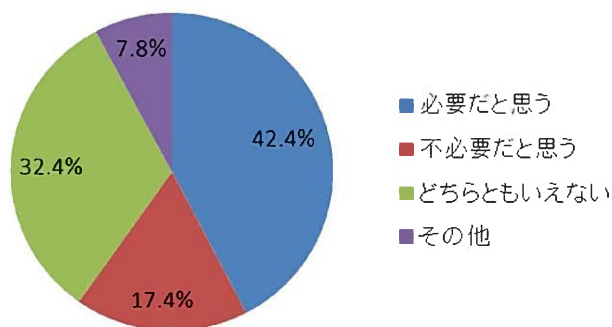


必要とする意見が65%を超えている。期日前投票の利用率が上がってきている状況を考えると、投票機会の確保の観点から、今後も取組を継続する必要があると考える。

地域別に見ると、湖東地域では必要とする数が比較的少ないが、能登川地域では必要とする意見が最も多かった。

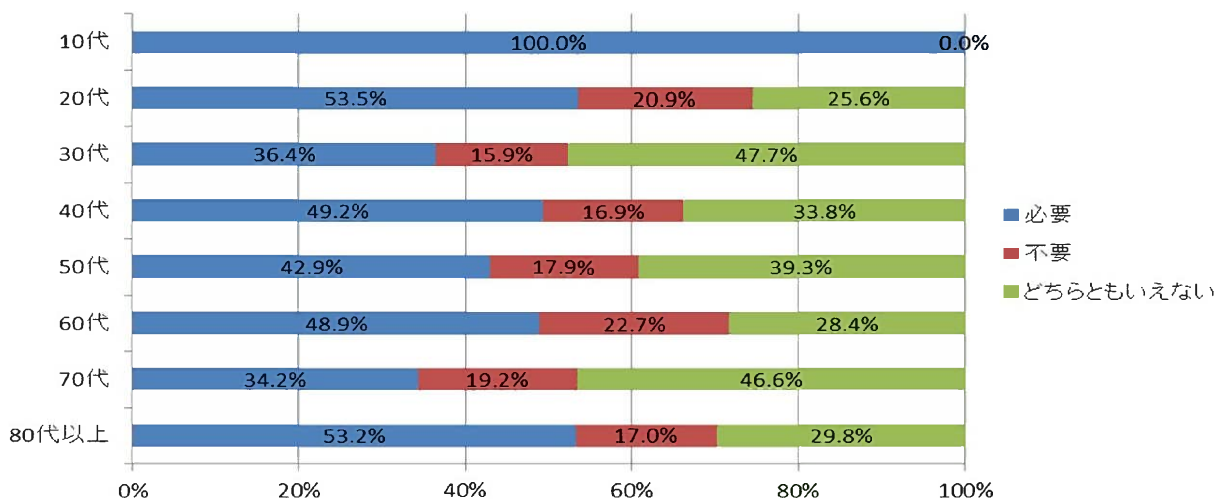


問 20 の 4 自宅から投票所まで無料送迎タクシーを運行したことについて

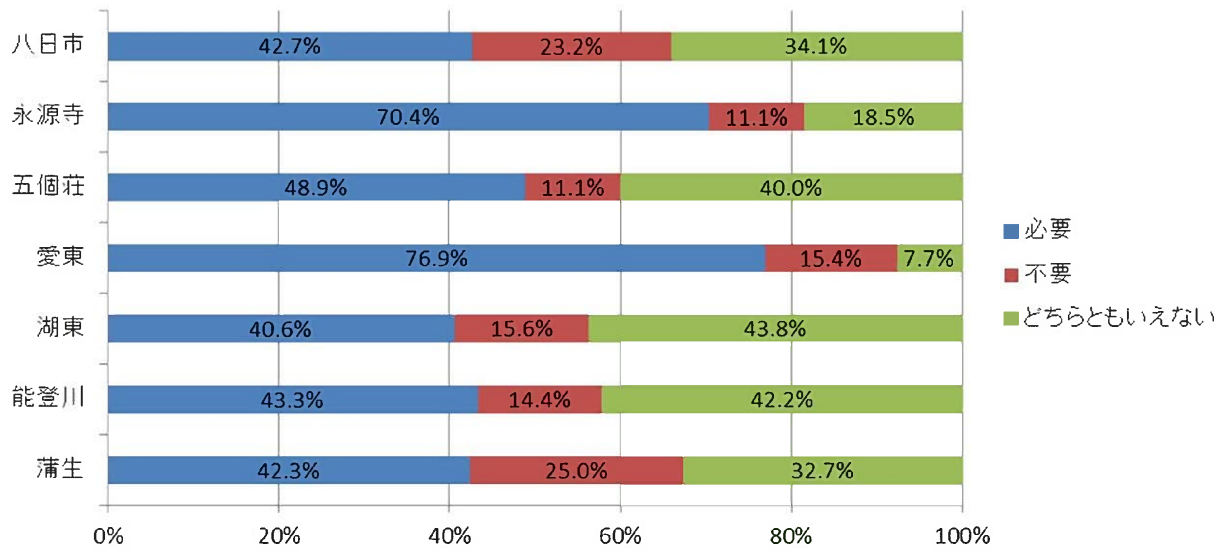


他の取組への回答とは異なり、「必要」とする意見が約42%と少なかった。「不必要」、「どちらともいえない」を合わせると約50%となり、実際の利用数と併せて今後の取組について検討する必要がある。

年代別に見ると、高齢者層で高い必要性を示すと思われたが、年齢とタクシーによる移動支援は直接関係がないように感じられる。



地域別に見ると、差があり永源寺及び愛東地域で必要とする意見が多かった。比較的広い投票区を有する地域に重点的に配車する等、工夫を行えば利用が見込める可能性もある。



3 投票区等の見直しについて

(1) 投票区見直しによる投票率への影響

本市の今回選挙の投票率については、投票区の見直し前の平成25年7月執行の第23回参议院議員通常選挙（「前回の選挙」という。）より4.91%上回る結果となりました。

国・県の投票率の推移は、国は2.09%（H25年52.61%、H28年54.70%）、滋賀県は3.56%（H25年52.96%、H28年56.52%）で、国・県ともに前回選挙を上回っているものの、本市の投票率は国・県以上の伸びを示しており、投票区見直しによる投票率への影響は少なかったと考えられます。

(2) 投票区見直しによる投票行動への影響

アンケート結果を見ると、「投票しなかった理由」について「用事があった」「適当な政党や候補者がなかった」という回答が多くなっています。

また、「投票所見直し」について尋ねたところ、「遠くなり投票しなかった」という御意見もいただきましたが、「なんとも思わない」「遠くなったが当日投票した」「わかりやすい建物になった」「駐車場やバリアフリーが整備された」「期日前投票を利用した」等に多くの意見をいただけたものと考えており、投票区見直しが市全体の投票行動を阻害することは少なかったと考えられます。

4 今後の方針

(1) 投票区

検証結果から投票区の見直しについては、市全体の投票率や投票行動に影響を及ぼしたとは確認できなかったことから、見直し後の投票区の変更・増設は行わないこととします。

しかし、一部投票率の下がったところもあり、期日前投票制度や無料送迎タクシーの運行等の周知を一層進めてまいります。また、今後も少子高齢化や過疎化による人口減少、一部地域の都市化の進行による人口増加、選挙制度の改正等選挙を取り巻く状況を常に注視しながら、本市の選挙執行体制が最善なものとなるよう努めてまいります。

(2) その他投票環境全般について

ア 期日前投票所の増設について

これまで、本庁及び各支所の計7箇所二期日前投票所を設置しておりましたが、今回の選挙から投票機会の拡大を図るため、新たにショッピングプラザアピアに2日間期日前投票所を開設しました。この取組に対して、「必要だと思う」という意見が60%以上もあり、投票者数も1,410名と多かったことから今後も継続して実施します。

イ 期日前投票所の終了時間繰下げについて

これまで全ての期日前投票所の閉鎖時間は午後8時までとしておりましたが、公職選挙法の改正により閉鎖時間の延長ができるようになったことから、投票機会の拡大を図るため、本庁及び能登川支所の閉鎖時間を5日間午後8時から午後9時まで延長しました。この取組に対して、その時間帯の投票者数は合計で79名と少なかったものの、延長が「必要だと思

う」という意見が60%近くあることから、今後も本庁及び能登川支所において継続して実施します。

ウ 各支所における期日前投票所開設期間の延長について

これまで参議院議員通常選挙の各支所での期日前投票開設期間は、本庁16日間に対し、8日間実施しておりましたが、今回の参議院議員通常選挙から投票機会の拡大を図るため、開設期間を本庁と同様にしました。この取組に対して、「必要だと思う」という意見が65%以上あり、延長期間の投票者数も、3,262名と多かったことから、今後も継続して実施します。

エ 無料送迎タクシーの運行について

投票所までの移動が困難な有権者への移動支援策として、無料送迎タクシーを運行しました。利用者数は42名と少なかったものの、アンケート結果では「必要だと思う」という意見が42%あったことから、今後も交通弱者への支援策として継続して実施します。

オ 選挙啓発について

アンケート結果を見ると、「政治に関心をもっていますか」の問いについて「非常に関心がある」「ある程度関心がある」と答えた有権者の投票率は85%を示しています。政治に関心をもつことで投票への行動に繋がることがわかります。また、「投票率が低い理由」の問いについて、「政治への無関心」「政治への不満や不信」「支持できる政党等や候補者がいない」「投票してもよくなる」といった意見が多く、選挙管理委員会の啓発等の働きかけでは解決が難しいものもありますが、アンケート結果等を踏まえ主権者教育の推進や選挙啓発の工夫によって、より有効的な啓発を検討してまいります。

最後に、投票所のあり方や投票機会の確保等については、選挙管理委員会として継続して検討すべきテーマですので、選挙毎に引続き検証してまいります。